

第62回日本リンパ網内系学会学術集会・総会において

浅野 重之先生が 理事長賞 を受賞されました！

令和4年6月24日（金）、埼玉県川越市において第62回日本リンパ網内系学会学術集会・総会が開催され、当センターの病理診断センター長である浅野重之先生が、理事長賞を受賞されました！

◎研究背景：壊死性リンパ節炎（Necrotizing lymphadenitis）は、若年者の頸部に多く発生する原因不明の疾患であり、1970年代の初期に日本人の病理医（1972年：菊池昌弘先生、1974年：若狭治毅先生）によって、世界で初めて報告されましたが、その後約半世紀の間、なかなか原因を特定できませんでした。

◎受賞内容：浅野先生は、福島県立医科大学病理医時代から共立病院・医療センターでの40年間のうちに約400余の症例を蒐集し、臨床的、血液学的、免疫学的、病理組織学的、免疫組織学的に詳細な検討を行い、本疾患に出現する特別な細胞である形質細胞様樹状細胞（PDC）の受容体（TLR7）が、細胞内に取り込まれたタンパク質に過剰に反応する結果として、この疾患が起こるということを突き止めました。その結果を英文誌に投稿し、2021年度リンパ網内系学会理事長賞受賞となりました。

◎受賞論文：Necrotizing lymphadenitis may be induced by overexpression of Toll-like receptor7（TLR7）caused by reduced TLR9 transport in plasmacytoid dendritic cells（PDCs）.

浅野先生の今後のさらなる活躍を期待しております！

